

役員の利益相反防止のための自己申告等に関する規程

(目 的)

第 1 条 この規程は、特定非営利活動法人兵庫盲ろう者友の会(以下「この法人」という。)の倫理規程第 4 条第 3 項に規定する役員の「利益相反に該当する事項」についての自己申告に関し 必要な事項を定めることを目的とする。

(対象者)

第 2 条 この規程は、この法人の役員に対して適用する。

(自己申告)

第 3 条 役員は、名目又は形態の如何を問わず、その就任後、新たにこの法人以外の団体等の役職を兼ね、又はその業務に従事すること(以下「兼職等」という。)となる場合には、事前に事務局長に 書面で申告するものとする。

2 前項に規定する場合のほか、この法人と役員との利益が相反する可能性がある場合(この法人と業務 上の関係にある他の団体等に役員が関係する(兼職等を除く。))ことによってかかる可能性が生ずる 場合を含むが、これに限られない。)に関しても前項と同様とする。

3 役員は、原則として、別紙に掲げる行為を行ってはならず、やむを得ない理由によりかかる行為を 行う場合には、事前に事務局長に書面で申告するものとする。

4 理事である事務局長が前各項及び次条の規定に基づく申告を行う場合には、これを代表理事に対して 行うものとする。

(定期申告)

第 4 条 役員は、毎年 7 月に当該役員の兼職等の状況その他前条の規定に基づく申告事項の有無及び内容について事務局長に書面で申告するものとする。

(申告後の対応)

第 5 条 前 3 条の規定に基づく申告を受けた事務局長は、申告内容の確認を徹底した上、理事と協議の上、必要に応じ、速やかに当該申告を行った者に対して、この法人との利益相反状況の防止 又は適正化のために必要な措置(以下「適正化等措置」という。)を求めるものとする。

2 前項にかかわらず、第 3 条第 4 項に規定する場合、申告を受けた理事は、申告内容の確認を徹底 した上、必要に応じ、速やかに当該申告を行った事務局長に対して適正化等措置を求めるものとする。

3 前 2 項における適正化等措置とは、この法人と役員との利益が相反する可能性がある団体との契約の 審議及び決議には参加しない等により利益相反を排除することをいう。

(改 廃)

第 6 条 この規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。

附 則

この規程は、2026 年 2 月 1 日から施行する。(2026 年 1 月 12 日理事会決議)

別紙

- (1) 業務委託及び助成事業等の契約行為を行う団体等の役員又はこれに準ずるものに就くこと。但し、やむを得ない事情があると認められるときは、この限りでない。
- (2) 契約行為を行う団体等又はその役員若しくはこれに準ずるもの若しくは従業員(以下「契約団体等 役職員」という。)から金銭、物品又は不動産の贈与(せん別、祝儀、香典又は供花その他これらに類するものとして提供される場合を含む。)を受けること。ただし、契約団体等役職員から、これらの者の負担の有無にかかわらず、物品若しくは不動産を購入した若しくは貸与を受けた場合又は役務の提供を受けた場合において、それらの対価が無償又は著しく低いときは、相当な対価の額の金銭の贈与を受けたものとみなす。
- (3) 契約団体等役職員から金銭の貸付け(業として行われる金銭の貸付けは、無利子のもの又は利子の利率が著しく低いものに限る。)を受けること。
- (4) 契約団体等役職員から未公開株式を譲り受けること。
- (5) 契約団体等役職員から供応接待を受けること。
- (6) 契約団体等役職員と共に遊技又はゴルフをすること。
- (7) 契約団体等役職員と共に旅行(公務のための旅行を除く。)をすること。
- (8) 契約団体等役職員をして、第三者に対し前2号から7号に掲げる行為をさせること。

以上